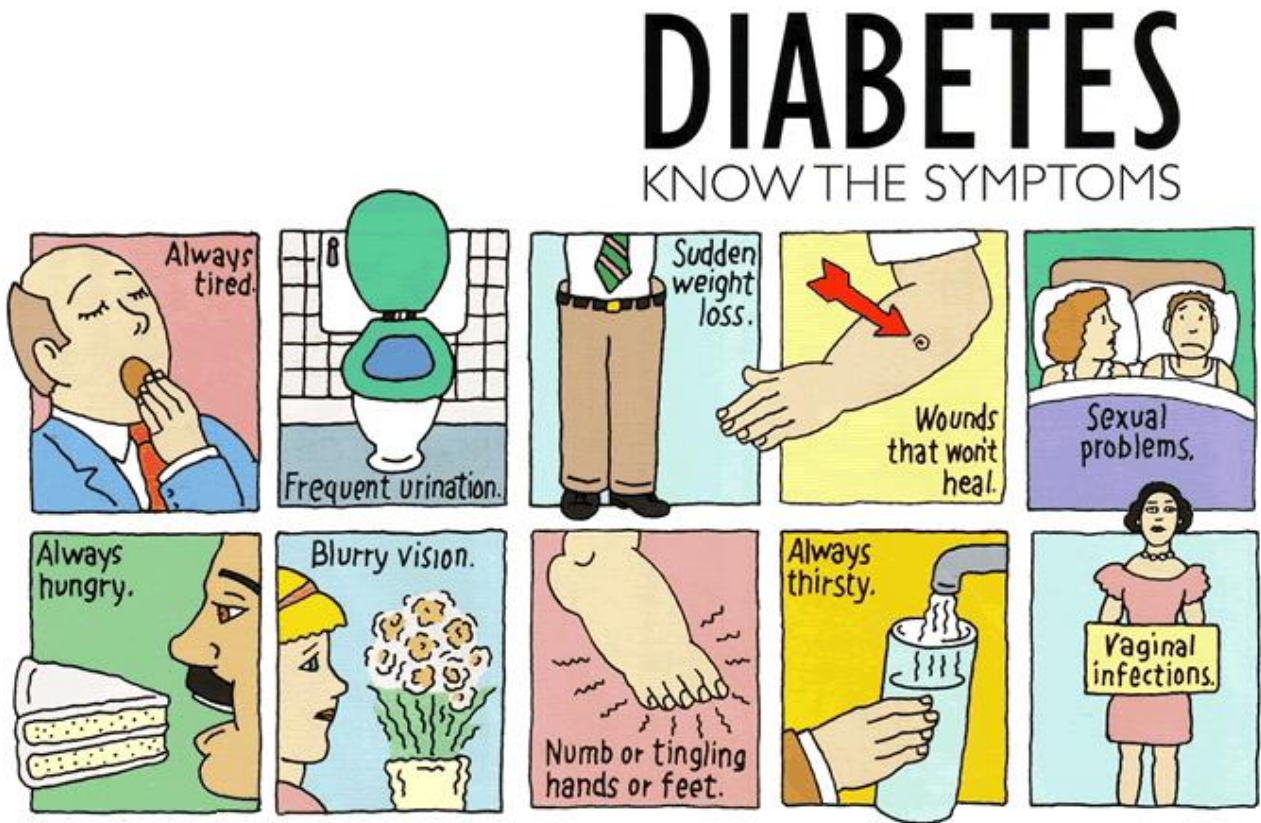


第四部 血液の循環不全は万病の元 -血液の循環が悪くて起こる病気-

第三章 糖尿病

糖尿病は血液のブドウ糖、すなわち血糖が増えすぎる病気です。ブドウ糖は、すぐに細胞の中に取り込まれません。膵臓から分泌されるインスリンというホルモンの働きが必要です。インスリンの作用不足によって血液中のブドウ糖が組織にうまく取り込まれず、血液中に過剰にある状態が慢性的に生じて“高血糖状態”となっているのが糖尿病です。

下の絵は糖尿病の方に起こる兆候の数々です。いつも疲れる、おしっこによく行く、いきなり体重減、傷が治りにくい、性的な減退、いつもお腹が空いている、手や足のしびれ、とにかく喉がかわく、膣感染



インスリンの作用不足とは、インスリンの量が不足しているか、あるいはインスリンの分泌量はちゃんとあるのにそれがうまく働かない状態（「インスリン抵抗性」という）を指します。

糖尿病の原因はさまざまですが、主に1型糖尿病と2型糖尿病に分けて考えます。

たとえば肥満、過食、運動不足、ストレス、加齢など、インスリンの働きを阻害するような因子が加わることが原因と考えられています。

原因が何にせよ、糖尿病では糖の代謝異常が起きていて、結果として動脈硬化が発生し、血流障害が起きた病態といえます。

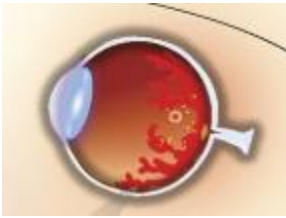


分類	説明
1型糖尿病	インスリンを分泌するランゲルハンス島のβ細胞が破壊されインスリンの分泌が不足する。
2型糖尿病	インスリンの分泌不足とインスリン抵抗性による。 (生活習慣病による糖尿病)

### 糖尿病ではなぜ動脈硬化が進むのか？ - 糖尿病は合併症のデパート！ -

糖尿病でなぜ動脈硬化が進むのか、実は詳細についてはまだまだわからないことだらけです。とはいえ、高血糖状態が慢性的に生じた結果、血小板の粘着・凝集能が亢進して血液が固まりやすくなり血管内皮障害を起こすことが報告されています。

また多くの糖尿病患者さんでは脂質の代謝異常も認められています。このように、糖尿病では動脈硬化と血栓症が表裏一体となっていることが考えられているのです。

糖尿病になると、まず毛細血管などの細い血管から障害を受け（細小血管障害）その後、太い血管へと動脈硬化が進行し心筋梗塞や脳梗塞、脳血管性痴呆、閉塞性動脈疾患などの動脈硬化性疾患を発症します（大血管障害）。尚、糖尿病では血流障害にとどまらず神経障害ももたらします。したがって、まさに「合併症のデパート」といえるぐらい全身にさまざまな合併症が発生するのです。糖尿病の怖さは、血管障害によって起こる合併症にあります。

病名	<糖尿病 3大合併症>
 <p>糖尿病性網膜症</p>	<p>眼の網膜にある毛細血管が、血流障害が原因で変性し、進行すると失明してしまいます。また、高血糖では水晶体の変性が起こって糖尿病性白内障という視力障害や視野狭窄を生じることもあります。糖尿病患者さんの約40%が合併しています。</p>
 <p>糖尿病性腎症</p>	<p>腎臓の糸球体にある非常に細い血管にも網膜症と同様は変化が起き、糸球体血管が動脈硬化を起こしたりして硬くなってしまうと、老廃物の濾過機能が障害されてしまい発症します。進行すると腎不全に至り、人工透析をせざるを得ない状態になります。人工透析の中で一番多いのは、糖尿病が原因の腎不全なのです。</p>
 <p>糖尿病性神経障害</p>	<p>神経細胞も血液から栄養をもらっていますが、血液の流れが悪いと栄養を受けられなくなりますので、特に知覚神経、運動神経、自律神経が比較的早期に障害され症状が現れてきます。動脈硬化によって血流が悪くなりますので、足の潰瘍や壊疽に拍車をかけることとなります。糖尿病によって足に起きる障害は時に足切断を余儀なくされる深刻な問題です（糖尿病足病変）。</p>